

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年7月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1270901588		
	有限会社 ぐるうぷほうむ礎		
事業所名	ぐるうぷほうむ礎		
所在地	千葉県船橋市行田3-1-22号棟102号室 (電話) 047-406-8184		
評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成19年6月22日	評価確定日	平成19年7月20日

## 【情報提供票より】(平成19年6月14日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成14年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	13 人	常勤	13 人, 非常勤0人, 常勤換算13

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1 ~ 2 階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( ) 円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(600,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	750 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 1,500 円		

## (4) 利用者の概要(6月14日現在)

	17 名	男性 7 名	女性 10 名
要介護1	0	要介護2	5
要介護3	2	要介護4	6
要介護5	4	要支援2	0
年齢	平均 85.5 歳	最低 65 歳	最高 93 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	南浜診療所
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ぐるうぷほうむ礎の運営について「考え方」が優れている。介護保険法や憲法25条の徹底的理解のもと、「共に生きる・自然体で」「利用者のピカピカ鏡に・一人一人が管理者であり」と独自の理念を掲げ、ホーム長、管理者のリーダーシップにより、人の命を暖かい2本の手で守る覚悟を決め、妥協することなく実践している。また職員重視の考えで、介護報酬の大半を職員報酬にあて、個人の技術重視とチームワーク重視で運営されている。職員の顔は明るく疲労感はない、また勤務年数が長い。医師がホーム長なので、重度化やターミナルケアの対応も細かく実施されており、利用者家族からの信頼が高い。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価による課題は地域への1広報活動、2整理整頓、3定期会議、4介護教室などであるが、幹部・職員で話し合わせ、すぐ実施できる2,3は実施改善され、1,2,については地域の定義を明確にされ、出来る範囲で実施している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価への取り組みは非常に積極的であり、理念に基づいて実践していることを熱心に話され、外部の評価者がどう評価するのか真剣に受け止めようとされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は半年に一度開催されているが、ホームの理念や取り組み、実際の生活を知ってもらう内容が中心であるという。推進会議のメンバーからは地域住民に関する相談があるなど、双方向的関係が徐々にできつつある。地域の理解や支援を得るための機会として、発信だけではなく違った視点からの意見、アイデアなどを引き出すことができるよう、会議の活性化に期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族と職員は車の両輪と考え、利用者本人の理解を共有し、どう取り組むかの視点で連携している。家族の訪問時の対話、ケアプラン作成時の対話が中心となっている。家族はホームに行きやすい、話しやすいと感謝され、利用者本人だけでなく、家族へも細かく気配りしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日々の外出時、近隣商店や地域住民の関わりを通じ、認知症の人が生きる「姿」を見てもらうことでつながりを持っている。入居者が一人で外出した際も近隣の方が教えてくれるなど、地域からの理解も広がっている。また、グループホームでは、利用者を主体とした地域とのつきあいを心がけ、実践している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法（憲法25条～介護保険法）の目的を核に独自の理念を創りあげている。理念として「共に生きる」「普通に自然体で」「一步前の介護を」「1人1人が管理者で」を掲げ、「人の命の尊さを手の暖かさで、覚悟を決めて守る」と熱心に話され、理念を実現しようと日々努力されている。		ぐるうぶほうむ礎の究極の目標といえる「理念」は分かり易く、説得力のある理念なので、職員、利用者・家族が共有するだけで無く、グループホームにかかわりのある地域の商店、住民組織、警察署、学校など団体にも、もっと理解していただく努力を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づく活動方針は、「介護職の位置づけ」や「確認事項」としてホーム長より示されている。理念の実現のために、個人の技能とチームワークを重視され、職員は上下の関係でなく、話し合いを尊重し全員で1人の利用者を守る体制で取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日々の外出時、近隣商店や地域住民の関わりを通じ、認知症の人が生きる「姿」を見てもらうことでつながりを持っており、入居者が一人で外出した際も近隣の方が教えてくれるなど、地域からの理解も広がってきている。利用者を主体とした地域とのつきあいを心がけている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に対しては非常に積極的な姿勢であり、グループホームだけでなく、訪問介護や居宅介護支援事業も実施予定である。評価結果を職員にフィードバックし、話し合い、また家族にも送付し、改善に活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	半年に一度、前期と後期に分けて会議を実施している。メンバーには利用者家族の他、地域の代表としての民生委員、自治会役員、保険者からは生活支援課職員などが参加。入居者やホームの生活のことを知ってもらうため、情報提供が中心に行われているという。		メンバーから地域住民に関する相談があるなど、双方向的関係が徐々にできつつある。地域の理解や支援を得るための機会として、発信だけではなく違った視点からの意見、アイデアなどを引き出すことができるよう、会議の活性化に期待したい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の考え方や取り組み、生活実態については、ホームのゆるぎない理念のもとに市担当者のみならず県、国へも積極的に発信・提言しており、制度や地域の課題解決へ向けた積極的な姿勢を伺うことができた。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	介護は本人・家族・職員の共同作業「車の両輪」と認識され、入居時での理念・方針の納得や「入居者の今の情報共有」を重視している。訪問される家族には情報を共有化し、入居者への話しかけ、散歩などかかわって頂いている。また花見や旅行などの行事の情報を提供している。利用者だけでなく家族にも細かい気配りをして対応されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者本人を職員がよく理解し「共に生きる」姿勢に対して、家族は本当に感謝されている。家族にとって、ホームは行きやすい、話しやすいところである。ケアプラン作成に参加して頂き、生活の記録は共有化され、対決の姿勢でなく、利用者の理解を共有しどう取り組むかの視点で連携している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	柔軟な組織運営体制であり、異動による影響は最小限に抑えられ、また異動によるプラス面も活かされている。13人で17名の入居者全員を見る体制であり、1人1人が17名と馴染みである。馴染みの職員と新職員のプラス面が活かされている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護報酬のほとんどを人件費に当て、職員重視の運営をしている。「1人1人が管理者で」の理念のもとで、技術の向上と自発的な活動を重視している。育成の中心は内部での事例による話し合いが中心である。外部研修は優れた研修を選択し、参加し共有化している。		理念のもとで、職員の主体性で運営されているので、能力開発・研修計画も職員が中心になって、個人とチームでの年間の課題・目標を検討し「やりたいこと、つきたい技術」を具体化して欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業連絡会には施設長が参加し、情報交換をしている。職員の参加機会は無いようである。</p>		<p>介護保険法の基本方針の目的を共有する同業の情報交換会として、現場の職員が参加できる機会が欲しい。これは行政がリードして作って欲しい課題である。</p>
<p><b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が納得して入居していただくことが大切なので、説明して、来ていただいて、少しでも気になること聞き対応し、時間をかけて「最後まで住む住みか」であることを納得していただくとのことである。入居後は家族の協力を得て、訪問してもらつ、電話してもらつ、泊まってもらつなど協力を得ている。</p>		
<p><b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b></p>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「共に生きる」の理念のもとで、入居者の最後の人生と介護者の大切な人生と一緒に生きて行こうとされている。利用者は、新聞切り、洗濯たたみ、テーブル片付けなど「助けてあげる」と言って役割を持ち、喜怒哀楽は自然な「笑み」を大切にしている。食事時に笑顔が絶えないホームである。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の出来事や支援の中で、本人の様子や言動などを時系列形式で記録に残している。一人のスタッフだけではなく、多くの視点から情報を集約し、本人の立場に立った意向の把握を心がけている。</p>		
<p><b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメント情報をもとに半年に一度の見直しを行っている。介護計画の支援方針や内容については、ホームの理念のもと、全員のスタッフが全員の入居者のことを理解しており、小さなことでも情報を蓄積し、介護計画に反映をさせている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングは必ず行われている。ホームでは、「金太郎館の介護」を理念に掲げ、誰でも同じ支援を行うことができるようチームケアは徹底されている。小さなことでも声かけあって記録に残しており、これら蓄積された情報から変化を読み取り、必要に応じて適宜見直しを行っているという。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、自宅に戻ることを試している利用者がいる。定員を超えてしまうため介護保険外の対応ではあるが、利用者の希望のために必要であれば最大限の協力を惜まず、住み替えの支援を柔軟に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療（かかりつけ医、専門医、病院）入居者、介護支援専門職、介護職、ホーム長の位置づけ認識を明確にして、各自のなすべきことを明確にしている。かかりつけ医とは何でもやりとりできる信頼関係があり、記録はバイタルサインはじめ入居時からのすべての出来事は克明に記録されており、適切な治療が受けられる体制を作っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合やターミナルケアの方針については、入居時に話し合わせ同意を得ている。今まで3人看取られている。当グループホームは医師がホーム長をしているので、利用者家族は、重度化しても、細かく観察し、対応されているので、安心しておられ、感謝されている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護は徹底されており、リスクに対する備えも十分されている。個人の誇りについては、入浴時はトイレ時には十分配慮されている。共に生きる理念のもとで、特にお客様扱いしない方針で進めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望で、自由に過ごす。居場所自由、散歩に行きたい人自由、毎日ポストに行く人などさまざま、自由である。遠くから見守ることが必要であるが、柔軟な組織運営体制なので可能である。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養管理は医師、栄養士の管理のもとに栄養バランス、1600カロリー、塩分7g以下で管理されている。メニューは希望を聞いて出来るだけ希望に副うようにしている。食事は評価者も参加したが、職員も一緒に楽しく、笑顔が目立つ食事であった。		
23	57	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能である。朝風呂の好きな人は毎朝入浴される。希望は出来るだけ副うようにしている。介護は交代で観察が偏らないように、万全を期している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割を持ってもらうということではなく、「やってくれますか?」より「やりましょうか?」とやる気を引き出し、利用者が主体的に関わることができるような支援を心がけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スタッフの業務に「その日の外出担当」を設け、いつでも外へ出てゆける体制を構築している。自分から外へ出てゆくことができないう利用者に対しても、時間で声をかけ外へ出る機会を設けるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	玄関に施錠はしておらず、対応するスタッ フ側も、外へ出てゆきたい方がいる場合も、 行く手を阻んだりするのではなく、送り出す 対応を心がけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	散歩の機会を避難訓練と想定して、利用者 の混乱を最小限に抑えた訓練を実施してい る。現実的には緊急避難は非常に困難とな ることが予想されることから、より一層日ご ろからの防災に力を入れているという。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養士の職員が中心となって献立を考え、 塩分やカロリーバランスを考えた食事を提 供している。食事や水分の摂取状況も必ず把握 しており、下痢などの体調変化へも、食べ物 などを工夫して対処するなど、徹底した対応 がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間に飾られている生花は定期的に変 えており、狭い空間ながらも生活感を感じる 環境である。生活の中にもリハビリの考え 方を入れ、環境整備に活かしている。		共用空間の中には利用者へ向けたポス ターの他、日々の支援記録なども張り出し てある。漏れなく確実に記録をするには最 善策であり、個人名は隠すなどの配慮がさ れているが、利用者は勿論、外からの訪問 者にも記録の中身は目に留まるため、より 一層の工夫に期待したい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	利用者によっては、馴染みのものを持って くることで返って疎外感を感じる方もおり、 居心地よく過ごせる居室の配慮に必ず利用者 個々の気持ちを反映させて対応している。		

 は、重点項目。